分校だより １・２月号

令和二年スタート

地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
〈ＴＥＬ〉０１８７（８８）１３１１
〈ＦＡＸ〉０１８７（８６）９０３５

●１月14日（木）、三学期の始業式が行われ、令和二年度を締めくくる学期が始まりました。今年度は新型コロナウイルス感染症による対応で、これまでの校内外の活動が十分に行えない一年でしたが、工夫を凝らしながらここまで来ました。今後どうなるか目が離せない令和三年のスタートとなりましたが、これからも地域とともに歩む太田分校です。令和三年もよろしくお願いいたします。

菅原和久校長先生のお話から　二つのお願い　充実した一年に

三学期の始業式に当たり、皆さんに二つのことをお願いします。

【新型コロナ感染症対策をこれまで以上にしっかりと】

「緊急事態宣言」が、関東の一都三県に引き続き、大阪や愛知など七府県にも追加で発令されました。県内でも毎日感染が発表され、油断できない状況となってきています。

自分が感染しない、他の人にも感染させないといった感染を広げないための「新しい生活様式」に取り組んでいく必要があります。毎朝検温を行い、体調に異変がある場合には登校しないこと、そして校内外でのマスクの着用や手洗い等、感染防止対策の徹底をお願いします。

【各自がそれぞれの目標をしっかりと掲げる】

目標は、達成可能なできるだけ高い、具体的な目標にしてほしい。そして、目標達成に向け、前向きに、絶対に達成するんだという強い気持ちを持ち、やるべきことをやり、行動することが大事です。そういう思いで一年を頑張ればきっと結果はついてくるものだと信じています。ただ一人だけでは努力が続かない時もあるでしょう。友達同士で助け合い協力し合うことは大切ですし、先生方を頼って、いろいろと教えてもらい、柔軟に考えを受け入れながら伸びていくことも必要です。一日一日を大切に、成長を感じられる一年であることを願っています。

◎三学期は教室の学習環境が大きく変わります。

昨年、エアコンが三年生の教室に整備されましたが、冬季休業中に一・二年生の教室にも付きました。また、一月末までには、すべてのクラスに大型の電子黒板と実物投影機が整備されます。さらに、三月末までには、全校生徒分一人一台タブレット端末も整備されます。特に、一人一台端末は、他の県に先駆けて秋田県が導入するものですので、これまで以上に意欲的な取組を期待するとともに、コロナ感染症が一日も早く終息し、皆さんにとって充実した年になることを期待しています。

進路活動報告会

●１月20日（水）、進路活動報告会がありました。三年生が一・二年生に自分の進路決定までの体験を話すというものです。図書視聴覚室で県内外への進学や就職など、合格や内定までの取組、一・二年生に対して三年生が感じた進路への心構えについて報告してくれました。発表後には一・二年生から三年生への様々な質問があり、三年生は丁寧に答えていました。身近な先輩の体験談とあって、一・二年生には大きな刺激となったようです。発表の一部を紹介しますので、今後の進路決定の参考にしてほしいと思います。

【県内進学・技術専門校】

●進学を決める前は就職も考えており、どちらにするか絞りきることはできなかった。家族や先生方に何度も相談して決断した。技術専門校の試験は適性検査と個人面接だったので、面接用に作文を中心に勉強した。面接試験は試験官に自分のことをしっかり大きな声でアピールするすんまとめ、何度も練習することが大切。

「一年生へ」

①試験は一般常識が求められる。早くから取りかかること。

②身だしなみを一年生のうちからしっかりしておくこと。

③自分が行きたい企業や学校をある程度決めておくこと。

「二年生へ」

○早く進路を決めて面接練習をたくさんすること。就職の人はインターンシップや企業見学にできるだけ多く取り組むこと。進学の人はオープンキャンパスに参加して理解を深めること。

【県外進学・専門学校高度調理科】

●早い段階から調理関係の専門学校へ進学したいと考えていた。試験は現代文と面接で、現代文に関しては対策問題集と先生からいただいたプリントを中心に取組んだ。面接は志願理由や学校生活、自分をどのようにとらえているのかなど、あらゆる事について質問された。十分に試験対策を重ねてきたので、試験では冷静に対応することができた。

「一年生へ」

○自分に自信を持って、挑戦すること。

「二年生へ」

○どこに行くにも身だしなみや挨拶が大切。焦らず自分のために頑張ること。

【公務員・自衛隊】

●小さい頃から陸上自衛隊に憧れていた。学科試験は国語、数学、英語、社会で、早い段階で過去の問題を正確に解くように努力してきた。何度も復習することで、少しずつ自分のものにした。面接練習では質問されたことをはっきり答えること、些細なことでも面接官に見られていることを意識しながら練習を繰り返した。学科試験では、早くから準備していたおかげで答えることができた。学校生活や資格の有無、家族の考えなど、多岐にわたる質問にとても緊張したが、意識しながら何度も練習していたので、自信を持って挑むことができた。

「一年生へ」

○進路が決まっていない人は早めにどのようにしたいかを決める。決まっている人はどのような準備をすればよいか調べる。

「二年生へ」

①職場見学やオープンキャンパスに何度も行き情報を集め、家族や先生と相談をする。

②整容で相手の印象も変わってしまうので、整容指導で何度も注意される人は注意されないようにすること。面接官は受験者の全てを見ている。

③履歴書の資格欄が埋まるくらい資格を取っていた方が良い。

【県内就職・縫製関係】

●インターンシップや職場見学で、自分が何をしたいのか見えてきた。ほんの小さな興味が「もっと上手になりたい」という具体的な探究心に満ちた自分に出会うきっかけとなった。三年生になり、三者面談から進路実現のために沢山の時間をかけ納得いくまで準備した。試験は面接のみだったが、すらすら答えられるように、様々な質問に答えられるよう練習を重ねておかげで合格できた。

「一年生へ」

○自分の長所を見つけ伸ばすこと。資格取得に積極的に取り組むことで就職や進学で有利になる可能性が高くなる。

「二年生へ」

○積極性を大切にしてほしい。進路活動は分からないことが沢山あるので、目標を現実するためにはどうしたらよいか、考えて行動することが大切。

【県外就職・インターネット付随サービス業関係】

●進路は県外就職と決めていた。コロナ禍で企業見学がまならない中、内定が決まるまでとても苦労した。会社側の求める人材の姿と自分の職業観の違いや、リモートによる面接など、実際に企業の姿をこの目で見て話を聞くことができなかった弊害を痛感した。ようやく三社目で会社見学をすることができた。東京へは感染症対策を万全にしながら向かい、「今度こそは」という決意で臨んだ。一週間後、内定通知をいただき、東京という大きな舞台で、自分がどこまで成長できるのか、どう生き抜くのか覚悟を決めた瞬間だった。

「一年生へ」

○就職試験は面接だけでなく作文や一般常識・適性検査を行う会社が増えている。今から沢山のことを学び、分からないことがあったら聞いて対策を立てること。「二年生から勉強を頑張ろう」ではダメ。

「二年生へ」

○しっかり情報収集し、自分がどこに行きたいのか深く考えて決めること。やらなければならないことが沢山あるが、焦らず落ち着いて冷静に物事を判断することが必要。

〈大切な心構えとして〉

①諦めない心。何があるか分からない進路活動。諦めず前向きに物事をとらえて、先に起こることを予想しながら行動すること。

②良い姿勢や言葉遣いを身につけられるよう「当たり前のこと」ができる良い癖をつけること。就職試験は高校の受験とは違い、募集人数の枠が空いていても会社の求めている人材でなければ落とされる。就職試験を何回受験しても内定に至らなかったら焦らず冷静に、一から物事を慎重に進めることを忘れずに。

一・二年生ＳＯＳの出し方講座

●２月３日（水）、ＳＯＳの出し方講座が開かれました。生徒が困難な事態や、強い心理的負荷を受けた場合において、適切な援助希求行動ができたり、心の危機に陥った友達への関わり方について深く考え、不安や悩み、ストレス等へ対応していく力を得ることを目的に行われました。グループワークでは積極的な話し合いが行われていました。

三年生コミュニケーションセミナー

●２月15日（月）、三年生の出校日に合わせ、職業人として必要なビジネススキルと考え方、思考を身につけていくための「新社会人準備講座（コミュニケーションセミナー）」が開かれました。講座は分校で初のｚｏｏｍによるリモートで行われました。今後このような機会が増えることでしょう。

ものづくり講座（紙ふうせん）

１月14日（木）～29日（金）のＬＨＲと総合的な探究の時間を活用して紙ふうせんづくりを行いました。

毎年２月に行われる小正月行事「太田の火まつり」でつくった風船を空に飛ばしており、今年は新型コロナウイルスの影響でまつりが延期となったものの、伝統を引き継ごうとつくりました。一、二年生が４班に分かれ、実行委員の方々の指導を受けながら紙風船をそれぞれ１個作りました。各班で今年の干支にちなんだ「牛」や疫病を鎮めるとされる妖怪「アマビエ」などのイラストに「豊作祈願」や「無病息災」のメッセージを添えました。

開催予定だった第40回太田の火まつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために来年度（令和４年２月上旬予定）に開催延期となりました。作成した紙ふうせんは、令和３年２月６日（土）に太田球場駐車場にて、神事を行った後、天筆とともに焚かれ願いが届けられました。